

[年度] 平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 藻場造成技術の開発（磯根漁場の生産力強化技術の開発）

[担当機関名] 水産試験場 増養殖部

[連絡先] 0735-62-0940

[専門分野] 水産

[分類] 普及

[背景・ねらい]

和歌山県では、アワビの餌となる重要な海藻のカジメ・クロメが減少しているが、その原因の一つとして、海水温の上昇が考えられます。そこで、各地のカジメ・クロメを用いて交配試験を行い、高水温でも生長が良い株の作出を試みました。また、県特産の食用海藻ヒロメについて、地域ごとの特徴を明らかにするため、形態や生長の違いを調べました。

[研究の成果]

1. 比井崎（日高町）クロメ（雄株）と目津崎（みなべ町）クロメ（雌株）を交配した株は高水温でも生長が良く、高水温適性株の作出に成功しました（図 1）。
2. ヒロメは、産地毎に形態が異なり、田辺湾産（江川・新庄など）は幅広で、熊野灘産（串本・太地）は細長いことを明らかにしました（図 2）。
3. 同じ条件で 4 株のヒロメを養殖したところ、串本の株が最も良く生長しました（図 3）。

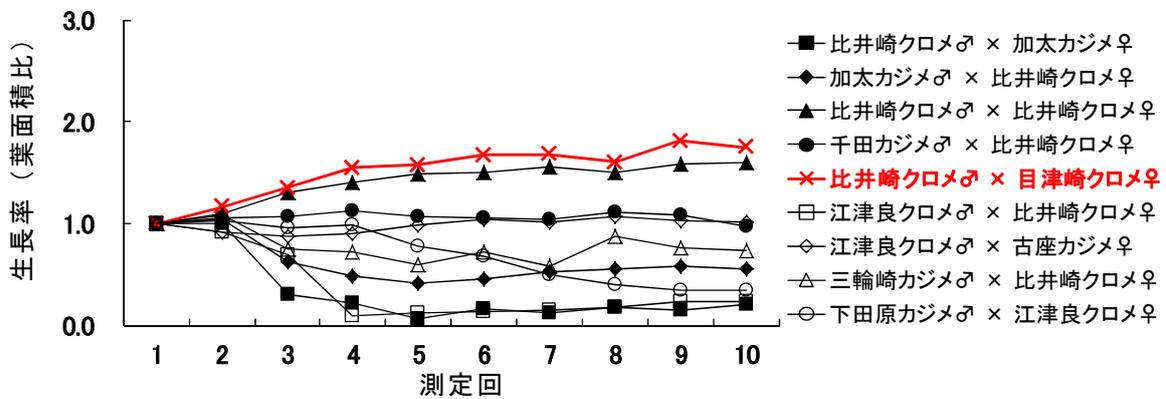


図 1 高水温（27.5℃）下での各交配株の生長率の推移



図 2 天然ヒロメの形態写真（左：田辺湾産、 右：熊野灘産）

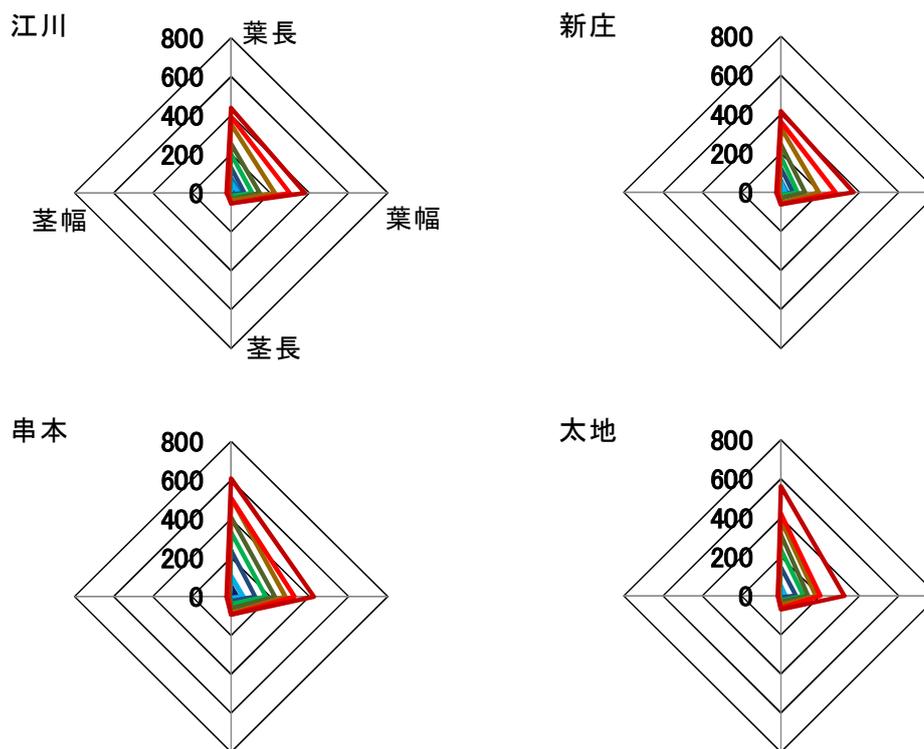


図3 養成試験におけるヒロメ藻体の測定結果  
 (単位：mm、試験開始から1週間毎の測定結果を内側から順に表示)

[成果のポイントと活用]

和歌山県では、高水温上昇が原因の一つと考えられる藻場の衰退が各地で見られます。そこで、本研究で作出した高水温適性株を現場展開し、カジメ類藻場の回復を図ります。

ヒロメの生長特性（産地による形態・生長の違い）を把握できたことから、地域のニーズに適した株を用いてヒロメの藻場造成・養殖を推進します。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業） 研究期間：平成25～27年度

研究担当者：白石智孝

発表論文等：日本応用藻類学会第14回大会 口頭発表

ホームページ掲載の可否：可